

活力ある日本食道学会をめざして

松原久裕

千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科



たいへん伝統のある日本食道学会理事長に平成26年7月に選任され、皆様にご承認いただきました。心より御礼申し上げます。その重責に身の引き締まる思いではありますが、本学会の飛躍・発展のため、皆様のご支援をいただき、これまで戸惑いながらも積極的に活動して参りました。

現在、学会から専門医機構へ移行される専門医制度については食道外科専門医を外科の3階として承認され、インセンティブに繋がるよう着実にそのシステムを確固たるものにしたと思います。他の消化器関連専門学会とも連携をとりその中での整合性を諮り、内視鏡関連の専門医に関しても積極的に関与したいと考えております。本年10月に迫った医療法改正による新たな医療事故調査制度の施行にともなう第三者医療事故調査機関への『予期しない』死亡例報告の開始、臨床試験に関する研究不正、鏡視下手術に伴う死亡事例など重要課題の山積している医療界において、本学会の取り組むべき課題も山積しています。このような社会的な問題についても本学会からも積極的に関わり、学会員が安心して実地診療、研究を推進でき、その結果として治療を受ける患者さんがすばらしい医療を受けられるべく医療安全管理委員会を立ち上げました。

一方で、食道疾患の診療・研究における日本の優位性は誰もが認めるところであります。世界に誇るべき業績が多数積み重ねられ、食道疾患研究会・食道学会の歴史とともにすばらしいものが築き上げられてきました。このすばらしい診療・研究体系をさらに発展させていくため、本学会から良性疾患・悪性疾患を2本柱として多くのことを発信できる『食道学』を推進する学会としての礎を作るべく、研究推進委員会を新たに発足させました。現在、研究内容決定のための諸規定を整備中です。本学会終了後に研究課題の募集を本格的に開始する予定です。

このような日本の業績を世界へ発信するため厳しい財政状況の中、Esophagusを発刊しておりますがさらに充実させ、積極的に本学会の業績を世界へ発信し、食道疾患治療・研究における世界の中心としての確固たる地位を築きつつ、また世界の食道研究者と連携を進めていきたいと考えております。情報発信のための貴重な資源である皆様にご協力いただき作り上げられた全国登録のデータベースを有効に活用していくためにも、全国登録の推進を積極的に行っていきたいと考えております。

本学会の発展のための全精力をあげ邁進して参ります。皆様のご支援、ご協力よろしくお願いたします。